

用語の意味・出典

1 エコロジカルネットワーク

意味：分断された多様な生物種の生息・生育空間を相互につなげること

都市の生態系の回復をはかるため、都市全体を対象に、生きものの生息・生育空間として重要な緑を核として、都市内に点在する緑をネットワークとして構成するものである。

出典：新長期計画 江東区みどりと自然の基本計画

2 魅せる街路樹

意味：成熟した都市にふさわしい美しい街路樹を整備すること。

グリーンロードネットワークにて区部5地区（江東区では臨海地区及び環状2号線周辺地区）、多摩地域9路線のモデル地域を中心に20万本の「魅せる街路樹」を整備する。

出典：「10年後の東京」への実行プログラム2009、2010

3 みどり豊かな都市空間のネットワーク

意味：環境軸における、道路や公園、河川などと、その整備等を契機とした周辺のまちづくりの中で一体的に形成される広がりや厚みをもった豊かなみどり、オープンスペースのこと。

出典：「10年後の東京」への実行プログラム2009（P19）

4 みちのみどり（道の緑）

意味：歩いて楽しい緑空間のこと。

出典：「10年後の東京」への実行プログラム2009（概要版）

5 みどりのネットワーク

意味：公園・緑地の持つ機能をより効果的に発揮させるために、みどりの連続性を充実させるネットワーク。（特に、みどり豊かな広がりや厚みをもった良好な都市環境を創出する環境軸の形成が重要。）

出典：みどりの新戦略ガイドライン（平成18年1月）

6 グリーンロードネットワーク

意味：既設道路を対象に高木間への中木植栽等を行うことや、植樹帯から植栽帯化へ移行を図る等、緑豊かで美しい街路樹を育成することにより、都市公園などの緑の拠点と緑でつなぐネットワークを形成すること。

出典：「10年後の東京」（平成18年12月）

7 風の道

意味：風の道は、建物の配置を工夫するなど都市計画を見直して、郊外から都市部へ風を誘導する風の通り道をつくることで、ヒートアイランド現象に代表される都市の気温上昇を緩和するとともに、地球温暖化や大気汚染などの環境対策を実現しようという考え方や手法のこと。江東区においては、臨海部から都心へ向かう緑の風の道をつくりだすため、海の森を中心とした海上公園の整備を進めている。

出典：「緑の東京10年プロジェクト」の施策化状況2010 他より

8 道路の移動円滑化整備ガイドライン

内容：高齢者、障害者等が自立した日常生活や社会生活を営むことができる環境を整備することが急務となり、バリアフリー新法および道路移動等円滑化基準等が制定され、本法律や基準に準拠し一層のバリアフリー化を推進するため、国土交通省所管のバリアフリーに関する基準（平成15年1月）努力義務として公表された。

9 緑視率

意味：本計画における緑視率とは、視界にどれだけの量の緑が入ってくるか、豊かな緑を視覚的に実感できるという意。

本来の意は、市街地における緑の量の比率を示す指標の一つ。高さ1.5mの視点で35mmカメラを用い水平に撮影した写真（水平画角54°・垂直画角38°）の中にある緑の割合（単位：パーセント）を示す。写真視野を用いて表すことから、スライド緑量とも呼ばれる。緑が多すぎても少なすぎても、ストレス解消効果が期待できないため、一般的には30%程度が望ましいといわれている。

10 東京ふれあいロード・プログラム

内容：地域の住民の皆さまや学校、PTA、企業などと東京都が協力し、都道の清掃や植栽の手入れなどの美化活動を行うことによって、道路利用のモラル向上と潤いのある道路空間の創出を目指していく制度。平成19年12月末現在、69団体の参加協力がある。

11 弊害

意味：街路樹にとっての弊害とは、維持管理上多くの手間のかかる樹木のことを指す。（例：倒木の危険性を伴う樹木、害虫の発生が多い樹木、剪定の回数が他に比べて多い樹木等）